

# 企画展示「LGBT ～あなたの色をみつけてみよう」

沖縄国際大学での司書課程受講生による展示活動

上原健嗣 内嶺佳純 幸地真  
(監修：山口真也)

## 1. 企画展示の目的・ねらい

日本国内において、LGBT・性的少数者の割合は約7%を占めると言われており、県内・県外のみならず、その権利拡大は国内で大きな注目を集めるテーマの一つといえます。

LGBT・性的少数者が抱える諸問題を解決するための支援制度について当事者への正しい情報提供が必要であることは言うまでもありませんが、周囲の人々への啓発を目的とした情報提供もまた急務です。沖縄県内でも、那覇市で「同性パートナーシップ条例」が施行されたこともあり、より多くの学生・職員に考える機会を提供し、LGBTをめぐり課題について知る権利を保障するためには、大学図書館での展示活動が有効であると考え、沖縄国際大学日本文化学科専門科目「図書館情報学特別演習Ⅱ」(担当：山口真也)の実習課題として、沖縄国際大学図書館の協力を得て、本展示を実施しました。

展示のタイトルは「LGBT～あなたの色をみつけてみよう」としました。まず、利用者に一目で企画展示の内容がわかるように「LGBT」をメインのタイトルとしました。そして、サブタイトルである「あなたの色をみつけよう」には、LGBTの尊厳と社会運動を象徴する旗(レインボーフラッグ)に虹色が使用されていることから、「色」を取り入れたタイトルにしたいということもあり、この名称を考案しました。

## 2. 展示コーナーの概要

展示コーナーの準備を進めるにあたり、まずは、沖縄国際大学のOPAC、沖縄県内横断検索、国立国会図書館データベースなどを使用し、「LCBT」「同性愛」「性的少数者」「セクシュアル」などのキーワードでどのような資料があるのか確認しました。

大学図書館の蔵書は本来は学術書が中心ですが、今回の展示は「啓発」を目的とするため、専門的なものだけでなく、入門書、解説書、写真集、マンガなども幅広くリストアップしました。また、沖縄国際大学図書館に所蔵されていない資料も多くあったため、リクエスト制度を利用して新たに購入を依頼することにしました。

新規購入する資料の選定にあたっては、私たち自身が、LGBTの知識に乏しい上に、図書以外のメディアを追加するべきかなど、難しい点もいくつかありました。オンライン書店や書評サイトのレビューなどの意見を参考に選定することになりましたが、その際、LGBTの図書には新刊本も含めて多くのレビューが付けられており、本問題への社会的関心の高さが改めて実感できました。

展示コーナーに展示するものは「図書に限る」というルールはありません。図書館が所蔵する資料の多様性を利用者に伝えていくことも展示の役割と考え、LGBTを取り上げた新聞記事、雑誌記事、DVDなども紹介することにしました。新聞記事、雑誌記事は沖縄

県内での動向を中心に集めて、(管理の都合上、展示できないため)記事のコピーを掲示しました。DVDは、廃盤になっていたり、ライセンスの都合もあって、現物を用意することができなかつたため、ポスターを作成して紹介することにしました。

展示コーナーに置くアイテムとしては、資料以外に、LGBTを象徴する「レインボーフラッグ」を制作しました。また、図書館を利用する学生に1人でも多く企画展示を見てほしいと考え、図書館の入り口や館内の数カ所に、展示を行っているという案内板を設置しました。

また、展示した資料の内容を分かりやすく伝えるため、面陳する資料には1点1点手書きのPOPを設置することにしました。

さらにLGBT問題を身近に感じてもらえるように、展示コーナーには本学に占めるLGBTの人数と比率を紹介し、「(人数が少ない)1学科分の人数に該当」することもポスターで伝えることにしました。

【図1 LGBT関係DVD紹介用ポスター、館内に設置した案内板、紹介用POP】



### 3. 展示作業中に感じたこと

本コーナーは、2016年6月30日に設置し、7月21日までの約3週間開設しました。

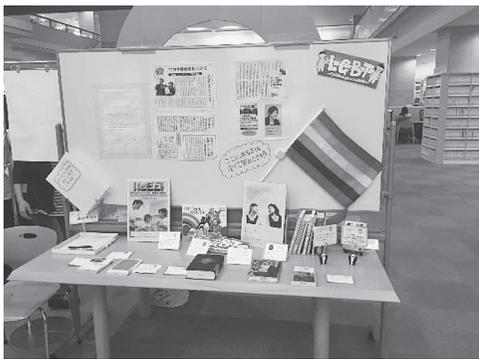
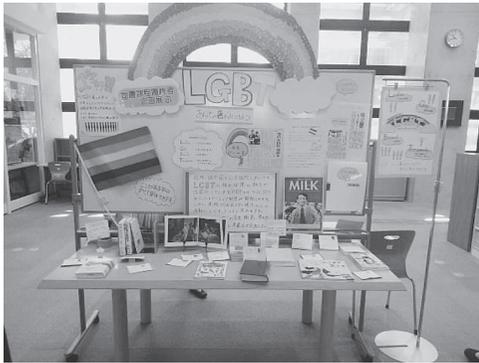
展示準備中には、まだ資料をテーブルに並べたばかりなのに、立ち止まって手に取ってくれる利用者も多く、大学生の身近な興味・関心に直結した展示を行うことができたのではないかと思います。

展示コーナーには、LGBTの象徴である、虹のアーチを作成し、ホワイトボードにマグネットで固定しましたが、裏面までは気が回らず、ダンボールの面が見えてしまい、「不恰好だ」という指摘が寄せられました。また、耐久性にも問題があり、マグネットの磁力が十分ではなかつたため、アーチが落下してしまい、展示期間中に修復作業を行うことになってしまいました。近くに利用者がいた場合、怪我をしていた可能性もあり、展示では安全性も考慮する必要があることを実感しました。

展示するためにリストアップした沖縄国際大学図書館所蔵資料の中には、作業当日になっても貸出中の資料がいくつかありました。期限内に返却されない資料も一部あり、事前準備の際に、メンバーで手分けをして予約を行う、取り置きを依頼するなどの工夫が必要でした。

展示終了日にコーナーを確認したところ、自作のレインボーフラッグがかなり劣化していることに気がきました。展示物の耐久性についてももう少し考える必要がありました。また、資料紹介用にPOPを資料のそばに置いていたのですが、資料の貸出・返却を繰り返したせいか、タイトルとポップのずれが生じていました。見回りを定期的に行い、POPのずれをなおしたり、展示物の修理を行ったりするなどの努力が必要だったと考えています。

【図2 展示コーナーの前面と後面】



【図3 劣化したレインボーフラッグ】

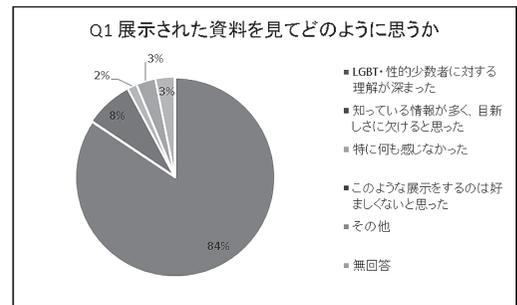


#### 4. 展示の効果—アンケート結果の集計

1. に挙げた展示企画の目的・ねらいが達成されたかを確認するために、展示コーナーにはアンケートを依頼するスペースも設けていました。3週間の展示期間中、合計64名の

方にアンケートに答えていただきました（有効回答数62）。以下、その結果を分析して、展示の目的が達成されたかを考察していきます。

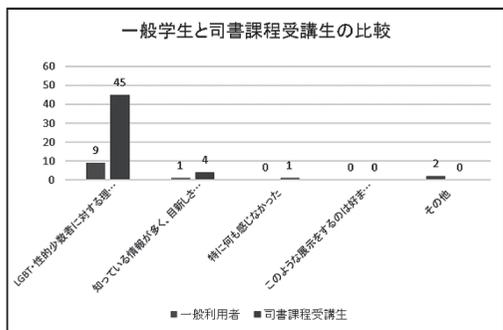
まず、展示された資料を見て、利用者がどのような印象を受けたのかを知るために、アンケートのQ1では「展示された資料を見てどのように思うか」と質問しました。その結果を見てみると、「LGBT・性的少数に対する理解が深まった」と回答した利用者が全体の8割を超えました。このことから、私たちの目的であった、「当事者への正しい情報提供と周囲の人々への啓発」は達成されたのではないかと思います。



なお、今回の企画展示は、司書資格科目「図書館サービス概論」（担当：山口真也）と連動しており、受講生が本展示を見学してアンケートを答えるという課題があったため、アンケート回答者の中には正直な感想を記入できなかった可能性も否定できません。そこで、司書課程を受講している回答者と受講していない回答者に分けて、今回の展示に対する印象に違いがあるかを確認することにしました。次のグラフがその結果を集計したものです。

結果を見てみると、今回の展示によって「LGBT・性的少数に対する理解が深まった」

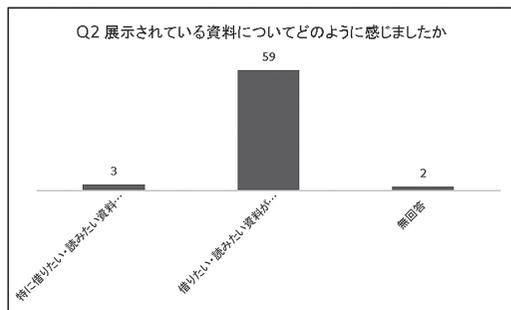
と回答した利用者は、司書課程受講生だからといって多くなるわけではなく、一般利用者とほぼ同じ結果ということが分かりました。司書課程の受講に関わらず、もっと言えば、授業の課題であるかどうかに関わらず、企画展示の目的である、「当事者への正しい情報提供と周囲の人々への啓発」は広く達成されたと言えるのではないのでしょうか。



アンケート調査のQ2では、利用者に「展示されている資料をどのように感じたか」を確認しました。次のグラフに示した通り、「特に借りたい・読みたい資料がなかった」の回答数は3（5%）、「借りたい・読みたい資料があった」の回答数は59（92%）、「無回答」は2（3%）、という結果になりました。

グラフから分かるように、「借りたい・読みたい資料があった」という回答数は全体の9割を超えており、実際に、マンガや入門書といった資料は多く貸出されていました。ただし、新書や文庫、面陳されていない資料などは借りられにくい傾向もあり、その興味関心が表面的なものにとどまっている可能性も否定できません。なお、貸出を行わなかった利用者にその理由を聞いたところ、「借りて読みたいけど、いまは時間がない」「テスト期間と重なっている」などの声が多く挙がっ

ていました。企画展示を成功させるには、利用者の関心を喚起するような資料選択だけではなく、展示方法、時期や期間も大きな因子として考慮する必要があることがわかりました。



この他にも、アンケートの自由記入欄には、「B（バイセクシュアル）・T（トランスジェンダー）の資料が少なかった。無性愛の資料がおまけのように感じた」「ノンセクシュアル・アセクシュアルに触れていない」のように、展示資料に偏りがあったことが指摘されていました。「多様性」をテーマとする資料展示であったにも関わらず、展示した資料そのものに多様性が欠けていた点は大きな反省点です。

展示資料のリストアップの際には、図書館を支える理念として「図書館の自由」の考えも生かして、LGBTの権利拡大の動きに批判的な資料の扱いをどうするか、についてもグループ内で議論しました。LGBTに対して偏見を持ったり、差別的な立場から書かれた出版物はほとんど存在しないのですが、一部、同性婚を否定するような資料は存在し、沖縄国際大学図書館にも所蔵されていました。当事者の方を傷付けないか心配しつつ、それでも、少数意見も含めて多様な意見があることを知ってもらうことも今回の展示の役割と考

えて、意図的にこれらの資料も展示することにしました。アンケートの自由記述欄にはそうした点についてのコメントは特になく、むしろ、「当事者なので、理解者が増えてくれるきっかけはとてありがたかったです」という好意的なコメントも寄せられました。今回の実習では、展示の技術を身に着けるだけでなく、展示を通じた資料提供のあり方についても深く考えることができたように思います。

## 5. まとめ・今後の課題

今回の展示企画はふだん司書課程の講義では経験できない、教育機関としての図書館の活動を知ることができました。

私たちは1ヶ月以上の時間をかけて展示を企画し、準備を進めましたが、実際の図書館ではより短い期間で多くの企画展示を行う必要があると思います。利用者の知的好奇心を喚起するような企画を常に考え続けるためには、司書の専門性として、世の中の出来事、ニュースに常にアンテナをはり、広い視野を持つことが大切だと感じました。

反省点としては、展示資料のリストアップが遅れたため、展示の開始日に新規購入資料が届かなかった点が挙げられます。その結果、本学図書館の職員の皆様には発注から装備までを短時間で依頼することになってしまい、日常業務の妨げになってしまったのではないかとグループ一同、深く反省しております。

今回の反省点を活かして、司書として働くことができれば、時事的なニュースを取り上げて、利用者の知る権利を保障するような企画展示や知的好奇心を喚起・触発するような企画展示を定期的に行えるよう、積極的に行動してきたいと思います。

最後に、今回の企画展示を実施するにあたり、資料の発注・受入、装丁、データ管理などで多大なるご協力を頂きました、沖縄国際大学図書館整理系の島袋彰さま、新垣圭子さま、瑞慶山緑さま、兼本暖さま、小渡勝さま、垣花聡さまに、この場を借りて深くお礼申し上げます。

---

うえはら けんじ うちみね かすみ こうち まこと  
やまぐち しんや：沖縄国際大学

よりよい保管システムを提供する



**日本ファイリング**

本 社 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2(新御茶ノ水アーバンビル)  
TEL 03(5294)3011 FAX 03(5294)3012  
福岡営業所 〒812-0036 福岡市博多区上呉服町10-1(博多三井ビル)  
TEL 092(262)2341 FAX 092(282)1241  
ホームページアドレス <http://www.nipponfiling.co.jp>